

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(嵐山小学校)

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	・国語科を中心に各教科での言語活動のさらなる充実 ・年七回の研究授業	・児童の話す・聞く態度の変容・ジョイプロ・学力調査結果 ・学校の授業がよくわかりますか。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習ノートの徹底 ・自学自習の習慣化をめざして狙いを明確にし、家庭学習の仕方を指導 ・スキル型、復習・振り返り型、予習・拡充型、調べ・探求型	・家で決まった時間に勉強していますか。
	読書活動の推進	・貸出図書数 1～4年—100冊、5・6年—5000ページの定着 ・朝読書の確実な実施	・家で読書をしていますか。 ・読書ノートの確認
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・委員会活動・たて割活動などで、話し合いや協力の場を積極的に作る。 ・保護者との清掃活動の実施	・学校の友達にやさしくできていますか。 ・決まりをしっかり守っていますか。
	望ましい友人関係づくり	・日常の行動観察 ・日記・作文の点検 ・朝会「ひびきあいタイム」の充実 ・スマイル活動の充実	・おうちのひとと学校のことや友達のことを話していますか。 ・学校の友達にやさしくできていますか。
健やかな体	自他を大切にしている態度の育成	・基本的な生活習慣の確立に向け、早寝早起き朝ごはん、ゲームナッシーキャンペーンの充実実施	・早寝早起き朝ごはん、ゲームナッシーキャンペーンの取組実践。
	体力の向上	・新体力テストの実施、結果分析 ・ランニングチームの取組	・新体力テストの結果やマラソン大会の結果
独自の項目	・小中一貫教育の推進	・京都嵯峨学園研修会の取組の充実 ・小中連携主任会の実施 ・京都嵯峨学園すもう大会実施	・研修会、主任会、パレード、相撲大会の取組



・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年8月22日
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
「よく分かる」48%、「分かる」41%と回答している。全国学力調査A問題では、国語・算数とも全国を上回っている。	今年度から設定した「基礎学力向上の帯タイム」の活用が少しずつ成果がでてきていると思われる。	「国語科の学習における効果的な話し合い活動」を考えていく。
「よくしている」36%、「している」34%と回答している。	家庭学習の習慣化は、できつつあるが、内容の見直しをしていく必要があると考える。	家庭学習のし方を見直す。
「よくしている」37%、「している」22%と回答している。	学校生活では、読書の時間があるものの家庭では、あまり時間がとれていない現状である。	家庭に働きかけることで、「家族の読書タイム」を進めていく。
「とてもと思う」37%、「そう思う」52%と回答している。また、規範意識の質問には、「よく守っている」33%、「守っている」53%と回答している。	縦割り活動「スタンプラリー」の取組を通して、高学年のリーダー性が育ちつつある。	縦割り活動の取組をしていくことで、協力の場を充実させていく。
「よくしている」51%、「している」30%と回答している。	「ひびきあいタイム」の話し合いでは、全校児童が自分の意見を伝えている。	さらに「ひびきあいタイム」の内容を充実していく。
下校後、ゲームを1時間以上する子どもが、全校児童の半数を占めという現状である。	放課後「友だちと遊ぶ」という遊ぶが、ゲームを持ち寄ってそれぞれがしているという様子である。	家庭への働きかけをしていくこと、また、学級指導では子どもたちが、自らの生活を見直すことを働きかける。
ランニングチームの取組は、継続している。	子どもたちに「外遊び」の大切さを伝え、働きかける。	保健室だよりでも嵐山小学校の子どもたちの現状を伝えていく。
京都嵯峨学園夏季小中合同研修会(8月18日)では、道徳科に向けての研修を行った。	9年間の見通しをもった「道徳教育」を考えていくことができた。	後期は、指導案検討をした授業を実践し、さらに検討をしていく。



学校関係者評価	
評価日	平成28年10月28日
評価者 (いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
学校の授業が「分かる」ということは、大事である。学校側の工夫や取組があつてのことだと思う。	学校運営協議会でサポートできることがあるなら考えていきたい。
家庭での読書量が少ないので、保護者・子どもで考えていく必要がある。	学校運営協議会でも話題にだして、話し合ってみる。
朝の「読書タイム」の読み聞かせでは、たいへん静かに聞いている子どもたちである。子どもたちが、さらに本に親しむことができるようにサポートしていきたい。	学校運営協議会の学習部会の図書部のボランティアを募っていききたい。
登校の様子をみていると嵐山の子どもたちは、仲が良いと感じる。高学年の子どもが、低学年の荷物をもってあげている姿を見かける。	地域行事での子どもたちの様子もよく見るようにしていく。
「ふれ愛コンサート」でもよい音楽を演奏している様子から、仲間の関係もよいのであろうと感じた。	縦のつながりがもてる機会を少しでも多く設定していくとよい。
京都嵯峨学園3校子ども相撲大会での団体優勝は他の子どもたちにも励みになり、これからも取組を続けてほしい。	学校運営協議会としても活動をサポートしていく。
子どもたちが、外で体を動かす取組をもっと地域で考えて進めていきたい。	「スポーツ大会」を今年度から取り組んでいるが、子どもたちの反応はどうなのか知りたい。
小中4校の研修会は、たいへんよいことである。この取組は、4校の子どもたちの成長に役立っている。	京都嵯峨学園運営協議会の話し合いも充実させていきたい。

平成28年度 学校評価実施報告書

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	授業改善	・国語科を中心に各教科での言語活動のさらなる充実 ・年7回の研究授業	・児童の話す・聞く態度の変容・ジョイプロ・学力調査結果 ・学校の授業がよくわかりますか。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習ノートの徹底 ・自学自習の習慣化をめざして狙いを明確にし、家庭学習の仕方を指導 ・スキル型、復習・振返り型、予習・補充型、調べ・探求型	・家で決まった時間に勉強していますか。
	読書活動の推進	・貸出図書数 1～4年—100冊、5・6年—5000ページの定着 ・朝読書の確実な実施	・家で読書をしていますか。 ・読書ノートの確認
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・委員会活動・たて割活動などで、話し合いや協力の場を積極的に作る。 ・保護者との清掃活動の実施	・学校の友達にやさしくできていますか。 ・決まりをしっかり守っていますか。
	望ましい友人関係づくり	・日常の行動観察 ・日記・作文の点検 ・朝会での「ひびきあい」タイムの充実 ・スマイル活動の充実	・おうちの人と学校のことや友達のことを話していますか。 ・学校の友達にやさしくできていますか。
健やかな体	自他を大切に する態度の育成	・基本的生活習慣の確立に向け、早寝早起き朝ごはん、ゲームナッシーキャンペーンの充実実施	・早寝早起き朝ごはん、ゲームナッシーキャンペーンの取組実践。
	体力の向上	・新体力テストの実施、結果分析 ・ランニングチームの取組	・新体力テストの結果やマラソン大会の結果
独自の項目	・小中一貫教育の推進	・京都嵯峨学園研修会の取組の充実 ・小中連携主任会の実施	・研修会、主任会、パレード、相撲大会の取組



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年2月24日
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
「よく分かる」47%、「分かる」44%と回答している。	・学年で教材研究に励み、子どもが分かる授業づくりに取り組んだ成果、長時間により基礎基本の定着に励んだ成果が見受けられる。	・習熟度別学習、教科別授業に取組を充実させる。 ・帯時間の学習内容の充実を図る。
「よくしている」31%、「している」40%と回答している。1回目の結果と比べると「している」と回答した児童が6%増えている。	・家庭学習の習慣化は、できつつあるが、内容の見直しを考えていく必要がある。	・家庭学習の仕方を指導するとともに、各学年で家庭学習として出す内容を見直ししていく。
「よくしている」28%、「している」29%と回答している。	・朝読書等の取組で読書好きの児童は増えてきているが、家庭での読書の習慣がまだ定着していない。	・「家族の読書タイム」の取組の充実を図る。
「とてもそう思う」30%、「そう思う」が59%。規範意識の質問には、「よく守っている」26%、「守っている」55%と回答している。「よく守っている」が1回目と比べ7%下がっている。	・縦割り活動により異年齢集団の仲間意識の高まりがみられる。また、高学年のリーダー性が育ちつつある。	・縦割り活動の内容の見直し・精選により、より質の高い活動の位置づけを図り、意識を高めていく。規範意識育成の徹底を図る。
「よくしている」55%、「している」26%と回答している。「よくしている」が4%上回った。	・日記を通して会話が広がっている様子がうかがえる。ひびきあいタイムの充実によりお互いの思いを共有する気持ちが育っている。	・ひびき合いタイムのさらなる充実を図る。 スマイル活動の充実を図る。
下校後、ゲームを1時間以上する子どもが、まだ、全校児童の半数を占めるという現状である。	・キャンペーンの取組で、ゲームナッシーの取組に重点を置いて取組を進めたが、意識改善には至っていない。	・早寝早起き朝ごはん、ゲームナッシーキャンペーンの取組の更なる充実を図ると共に家庭への働きかけの工夫を考え行う。
ランニングチームの取組の継続。 委員会活動による児童への体力づくりへの働きかけの実施。	・運動委員会「遊び」を通しての体力づくりの紹介の実施により、体を動かすことの楽しさを実感できた。	・継続した取り組みへの働きかけが必要。
京都嵯峨学園 嵯峨中パレード、中学校授業公開、小中連携主任会の実施。	・小中連携主任会の実施により連携の意識が高まった。小・中授業公開の実施により、お互いの思いの理解を深めることができた。	・他の分掌主任も会をもち連携を深めていく。



学校名(京都市立嵐山小学校)

学校関係者評価	
評価日	平成29年3月1日
評価者 (いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
学校の授業が「分かる」ということは、大事である。学校側の工夫や取組があつてのことだと思う。	学校運営協議会でもサポートできるところはしっかりとサポートしていく。
家庭での読書量が少ないので、家庭での取組を考えていく必要がある。学校からも発信してほしい。	学校運営協議会でも、話題として取上げ、地域、学校、保護者が一体となって取組が進められるように話し合っていく。
朝の「読書タイム」の読み聞かせでは、興味をもって熱心に聴いている。子どもたちが、さらに本に親しむことができるようにサポートしていきたい。	・学校からの発信も含め、家庭での教育力の向上に努められるよう地域も協力していく。
・子どもたちの地域行事への参加の様子を見ていると、子どもたちどうして声を掛け合いながら、楽しそうに参加しているようすが伺える。	・あいさつ等も含め、地域として子どもを育てていくことが大切。「やってみたら当然」ではなく感謝の心が育つように意識していく。
・学習発表会等発表の様子を見ていると、クラス丸となり取り組んでいる様子に仲間意識の育ちを感じた。	・チーム嵐山としての意欲を感じる。このまま取組を進めてほしい。
京都嵯峨学園として子どもたちが参加できる行事がもう少しあればよいと思う。	・京都嵯峨学園運営協議会でも話題として取上げ考えていく。
子どもたちが、外で体を動かす取組をもっと地域で考えて進めていきたい。	・「スポーツ大会」等設定し取組を進めた。子どもたちに浸透していない面もあり、たくさん子どもたちが参加してくれるように工夫していく。
小中4校の研修会は、たいへんよいことである。理解を深めるため地域・保護者への発信も大切である。	京都嵯峨学園運営協議会の充実を図っていくと共に、地域・保護者への発信方法も考えていく。

3 総括・次年度の課題

「話をよく聞いて考え、自分のおもいを表現する子～豊かなコミュニケーション能力の育成を目指して～」という研究主題のもと、確かな学力向上に向けて、校内研究を中心に効果的な話し合いの場を設定することに重点を置いて取組を進めた結果、児童の話すことへの意欲の高まりが感じられた。効果的な話し合いの場の設定は、他教科にも汎用させたい。今後さらに、「学ぶ楽しさ・分かる喜び」を全ての児童が味わえるように研究を重ねていきたい。
・本校の教育活動について、学校評価やホームページなどを通じて、さらに地域や保護者に積極的に発信し、理解を深めていただけるようにしていきたい。